
Chocolate **甘い初恋**

三月 亜莉棲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Chocolate 甘い初恋

【Nコード】

N4076Y

【作者名】

三月 亜莉棲

【あらすじ】

工藤新一はたまたま、居眠りをしていたとき、クラスメートの甘音沙琶は

少し不安があった。そしてとうとう、先生がその不安の種の話を始めた。

それは、『今日、交換留学生を決めようと思っている。』毎年、代表の交換留学生はロンドンの『ファルダントンハイスクール』に行き3日過ごした後、代表を決めつれて帰り代表は3日間帝丹高校で過ごすというもの。

毎年、代表になっていた沙琶は昔住んでいたロンドンに行くのに飽きていて、代表になりたくなかったが先生は『今年は代表をココのクラスだけ4人にするそうだ!』と告げられて・・・

このお話は、新一がコナンになることはありません。
また沙琶と新一が恋をするというお話ではありません。

登場人物

工藤新一 (高3)

高校生探偵、成績優秀スポーツ万能。完璧な存在だが蘭だけにはかなわない。

毛利蘭 (高3)

空手都大会優勝経験アリ。美人でとてもフレンドリーだが、やさしすぎてたまされてしまう事多々アリ。

鈴木園子 (高3)

鈴木財閥の令嬢。

蘭の幼馴染で新一とは悪友。

甘音沙琶 (高3)

10歳までイギリスのロンドンに住んでいた。毎年、交換留学生に選ばれ今年もなってしまうのではないかと不安。

成績優秀で英語の他5ヶ国語をしゃべる事が可能。

水間涼希 (高3)

沙琶の幼馴染で沙琶と同じく10歳までロンドンに住んでいた。

沙琶と同じく交換留学生に選ばれるのを嫌がっている。《理由は
同上》

成績優秀で英語の他5ヶ国語をしゃべる事が可能。

港都ジュリア (高3)

沙琶の幼馴染。しかし沙琶とは違い、ジュリアはフランスのパリに

住んでいた。成績はまあまあだが、語学は得意で沙羅と涼希と同じく

5ヶ国語を話す事が可能。交換留学については上同。

紅岬梓（高3）

フランスの学校から転校してきた。

3ヶ国語を話す事が可能。

サラリー・コーラル

フェルダンタンハイスクールの生徒。

日本語が話せる。

ビスタ・アレイン

《上同》

サラリーの幼馴染。

イザベラ・ルーラ

愛称はベラ。

日本語が話せ、5歳までフランスに住んでいた。

パーシー・ジェイソン

ベラの彼氏。10歳まで日本に住んでいた。

増えるかもしれませんがよろしくお願いします！

Chocolate 1 (前書き)

園子視点です。

Chocolate 1

「おはよう、蘭ちゃん。」

「おはよう、沙琶ちゃん。」

「そういえばさ、もうすぐだよね・・・」

「ああ！交換留学？いいなあ沙琶ちゃんは毎年言ってるんでしょ？
あたしも行きたい」

「あたし的にはフランスがいいなあ、ジュリアの故郷だし、お父
さんもフランス人でしょ？」

「うん。そうだけど、あたしはベルギーがいい！だってフランス
もイギリスも行き飽きたもん。」

「うっせーな。」

「あさっばらからよくそんな話できるわなあ。まっ俺も行きたく
ないのはおんなじだけだよ。」

「涼希だけはそーゆーのわかってくれるから許せる。」

「なのに新一はどうして・・・」

「ちよっ・・・ら、ん？」

(殺気が・・・汗)

「おりゃーーーーー!!!」

「おわっ!?!」

始まった・・・(汗)

どうしてこうなのかねえ・・・

お互い好きなのは見え見えなのになんで付き合わないのかしら！
ほんと、苦労するわ・・・(呆)

「席付けー！転校生がきとるぞー!」

「どんな子お?」

「ほんにんに聞け。入れ。」

「失礼します。」

「おわっ!」

「工藤あぶねえ!」

「へっ?おわつと。」

フウー。皆安心、転校生にぶつかるところだった。

「工藤・・・お前は・・・(怒)」

代表になつてもらいたいやつを考えとけ。」

「「「「「「は——い——!」「」「」「」

今年是谁だろ。

去年。新一君と蘭が代表で行つたけど・・・

「あつそれと!」

「それと?」

「今年は代表が4人になつた。しっかり考えとけ!。」

ザワザワッ

ありゃりゃあ・・・

どうしよう。あと二人はどうしようかなあ・・・。

Chocolate 2 梓の思い(前書き)

梓視点です。

Chocolate 2 梓の思い

「それどついでにと……?」

ここはフランスのParis。

今回は私が、帝丹高校に来る前のお話をするわ。

「だからな……日本に転勤だ。」

私のお父さん、紅岬こうせき 聖ひじりは外務省に勤務していて海外への転勤は普通だった。

そして今回、私は日本に戻らなくてはならなくなった。

「お母さんはどつするの?お母さん、ココ離れられないよ!」

私のお母さん紅岬こうせき 麗華れいかはFranceで有名な

洋服ブランド&チョコレート会社の社長。こっちに来てお母さんは余裕ができたから趣味としてはじめたのが大当たり。いまではFranceを歩くと周りはほとんどお母さんのブランド『フェリーチエ』

の洋服を着ているし、みんな私に『フェリーチエのチョコレート残ってる?』って聞いてくる。

「母さんもついてくる。日本にも『フェリーチエ』を開くんだ。」

「よかった……でも私、友達と別れたくない。」

私は、生まれてすぐFranceに来てずっとこっちだったから
友達と離れるのは悲しかった。

「じつはな……。お前をこっちに残すとしばらく連絡が取れなくな
るんだよ。」

「なんで？」

「日本で父さんは外務省の上の方につくんだ。だから忙しくて母
さんも父さんも

お前に連絡できんだ。だから……。我慢してくれ。」

「わかった……。私、行くわ。」

「こうして、私は日本の東京の帝丹高校に転校することは決まった
の。」

Chocolate 2 梓の思い（後書き）

さてさて・・・この先、まったく話を考えておりません！

（じつは他の話のそんな感じで思いつきで話進めるんで最後はどうなるか大抵

わかりません・・・）

ですが、すぐに投稿しますのでお楽しみを！（おいおい・・・）

Chocolate 3 交換留学に行くのは誰？

「それでは、いまから交換留学の代表を決める。
4人の名前を紙に書いてここに出せ。」

「「「「はい。「「「「」

みんなが紙を出して結果を見た。

結果・・・

工藤 1 5

甘音 1 4

毛利 1 1

水間 6

港都 4

「つてことで代表は工藤、甘音、毛利、水間だな。」

「またかよ・・・。」

「工藤・・・。よろしくな・・・交換留学。」

「おう……。」

「やった 交換留学大好き！」

「のんきでいいなあ……蘭ちゃん。」

「さすが毎年行ってる人はちがうねえ……」

「当たり前でしょ？つてか、1年行ってないとそんなに楽しみなわけ？」

「もっちろん！」

「あきれる……」

「そうだ！交換留学の代表4人は放課後に職員室に来いよお！」

「めんどくせー。」

「工藤、来ないと明日居残りさせるぞ。」

「うう。はい……。」

と云うわけで交換留学は、

新一、蘭、沙穂、涼希で行く事になったのであった（チャンチ

ヤンツ）

「じゃあ工藤、毛利、甘音、水間。頑張ってきて来い！それとつれてくるのは4人だから」

間違えて2人にしないようになー！」

「」「」「わかってます。」「」「」

そして、飛行機内に入ったものの・・・

「席、どうする？」

「そっぴやそっぴやだな。」

そう、蘭と新一はカレカノ同士だし、沙琶と涼希も幼馴染だから。沙琶と涼希的には

蘭と新一を隣同士にしてやりたいのだが、上の発言をした人物が蘭だったためどうしようか

困ってしまった。

「あたしはどうでもいいよ。」

「俺も。」

「俺もだな。」

「じゃあグッとパー？」

結局コレだ・・・

「グッとパーで分かれましょ！」

結果は・・・

「あたしパーみたい。」

「私はグーだよ。」

「俺はパーだけど。」

「俺はグーだぜ。」

やってしまった・・・

蘭と新一を隣にしようと思い、

いつも気が合う沙琶と涼希はいつも通り、手を出したが

いつもなら同じはずなのに、こういうときに限って新一と沙琶、涼希と蘭になってしまった。

「じゃあ、沙琶ちゃんたちはそこ座って？私たちはココでいい？」

「OK」

しょうがなく、沙琶と涼希はお互いの席に座った。

新一は少々がっかり気味のようだ。

（工藤君、ごめんね？ほんとは涼希となると思ったんだけど・・・）

（しょうがねーよ。甘音にもわりーしな。）

（あれっ？ちょっと工藤君まって？涼希からだ。工藤君によ。）
そのメモサイズの紙に書かれていたことは、

工藤

わりーな俺、てつきり沙琶と一緒にかと思っただけけど・・・

帰りの飛行機では、お前を毛利の横に座らせてやるぜ！

水間

（なんだよこれ笑）

（ねっ？思ってることも一緒なんだからあたしたちお互い横同士にしようとしてたんだ。）

（ありがとな。甘音。）

（うっうん。）

そして、お互い、趣味が一緒なせい（蘭と涼希の場合は涼希が

合気道をしていたから、そして

沙琶と新一の場合はシャーロックホームズが好きなのと父親が作家ということ)ずっと

お互いの話に夢中になっていた。

ファルダントンハイスクール

俺たちはとりあえず、ハイスクールについた。

自己紹介は終わって静かになるかと思ったら・・・

「Mr. Kudo is a high school student detective?」

He is I Hwang! Give me a sign? (工藤君って高校生探偵だよね? 私ファンなの! サインちょうだい?) 「

「Although it is good... (いいけど...」

「It did!... (やったー!」

とまあこんな感じで休み時間、俺はとにかく大変だったんだ・・・。

まあ蘭の場合は、

「It is lovely. It will go to play after school. (可愛いね放課後遊びに行こうよ。)」

「Even if it says suddenly... (いきなり言われても...)」

これはさすがにいらついた。

でも、甘音がなんとかしてくれただから大丈夫だった。

そして、夜はここで仲良くなった友達の家に行くことになった。

しかも、隣の家同士の友達に誘われたんだ！

丁度いいから甘音も蘭もOkしてた。

俺たちはたまたまその子のBoy friend（彼氏）にあたったんだけどね・・・（笑）

それで、甘音と蘭はイザベラ・ルーラの家に、俺と水間はパーシー・ジェイソンの家に行く事になった。

（まあ寝る前まではほとんど一緒だったけどな。仲いいし、楽しかったから）

パーシーは日本語がしゃべれるから（てかしゃべりたいらしい）ずっと日本語だった。

「なあ、工藤。毛利ってお前の彼女？」

「そうだけど？」

「美人見つけたな。幼馴染だったっけ？俺もそうだな。」

「つてか工藤、お前小学生んときから毛利好きなんだろう？」

「えっ！まじかよ工藤！水間！詳しく教えてくれよ！」

そんな感じで延々と俺と蘭が出会っ経緯と付き合っまでを水間に
はなされちまったんだよ（涙）

女子はどうしたんだろうな？

パーティーに行く前に……（女子編）

「明日は、パーティーがあるのよ！」

友達の中で何人か呼んでるからよかつたらこない？」

「いきたい！」

私たちは、イザベラ（以後ベラ）の家でいろんな話をしてるの！

ベラはお母さんがハリウッド女優で、いまは家にいないんだけど、お父さんが家で弁護士の仕事をしていて、すっごくかっこいいお父さんなの！

明日は、ベラのお母さん主催のパーティーがあつて、それに出て欲しいって！

「じゃあ、こっちに来て。明日着るドレスを選ばなきゃ！」

「え！……いいの？借りちゃって。」

「大丈夫よ。行きましょう。」

ファッションルーム

「す、すっごくいいね……。」

「ドレスがいっぱいね。ベラ、これあなたの？」

「ゲストの人やもちろんお母さん、そしてあたしのもあるわ。それでも好きなやつをどうぞ」

沙琶ちゃんが思いついたみたいがいい始めたんだけど・・・

「ねえねえ！みんな他の人のドレスを選ばない？」

あたしが蘭ちゃんを選ぶ！」

「じゃあ、私は沙琶のドレスを選ぶわ。」

「じゃああたしがベラ？」

「」「」「やろっ！」「」「」

というところで、お互いのドレスを選ぶ事になったんだ。

「靴と、髪飾りの選んでね？髪型はメイクアーティストに頼むから。」

化粧とアクセサリーもドレスに合わせてしてくれるわ。」

「ちょっとベラ、きて？」

「ええ。」

蘭が、ベラに選んだのは、シャンパンゴールドのリボンとパールと貴重としたドレス。

髪飾りは、少し濃い、クリーム色のリボン。靴は、シャンパンゴ

ールドのパンプスでパールが付いている。

「じゃあ蘭はこれ！」

沙琶が見せたのは、淡い薄めのブルードレスで腰の辺りに白のりボンが巻いてあるミニドレス。

髪飾りはシンプルな黒のカチューシャで靴はドレスに合わせたブルーの靴。

「じゃあ沙琶、あなたはこれかしら？」

ベラが選んだのは、クリーム色の胸元にピンクのバラのコサージュが付いたドレス。

髪飾りはピンクのオシャレなかんざし。

「じゃあこれでOKね、じゃあ明日のために確認でどっいう風になるか見ておきましょう？」

メイクさんがまってるし。」

こうして、女子はパーティーに出る準備が整い、パーティーに向けて確認用のドレスアップをはじめた。

まあ昔の俺たちみたいな感じだけだよ。

「とりあえずいこうぜ。皆待ってる。」

まあスーツを着せられた俺たちは、パーティー会場に行くことになっただ。

しかも、涼希と俺のスーツ、サイズピツたしなんだけど……。

もともと行かせるつもりだったな……。こりゃ（汗）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4076y/>

Chocolate 甘い初恋

2011年11月21日22時52分発行